

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	森里海連環学と地球的課題(The earth system and linkage of forest, human and coastal ecosystem)	授業コード	A031251
担当教員名	池畑 義人		
配当学年	1	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	履修条件はありませんが、講義に毎回出席してオリジナルのレポートを提出することが求められます。		
受講心得			
教科書			
参考文献及び指定図書			
関連科目	大分学・大分楽		

授業の目的	<p>わが国には、里山・里海という、人間と自然が共生する生活がありました。しかし、高度成長期の時代には、里山や里海のことは忘れ去られ、自然の荒廃が進みました。その後、自然環境の修復・再生に関する技術開発に多くの人材と費用が費やされました。しかし、その手法は山と川と海のつながりを無視したものでした。</p> <p>人が住んでいる土地の海の環境は、その源である川と山(森と里)の環境を修復しないと再生しないのです。そうした反省を踏まえて、山と川と海のつながりを重視する、森里海連環学という新しい学問が生まれました。</p> <p>この講義では、全地球的な視点から環境問題をとらえ、そのなかで森と里と海がどのようにつながっているかを理解し、各受講生それぞれが専門科目を受講する中で環境問題を考えるための材料を提供します。</p>
授業の概要	<p>初回の講義から8回目の講義では、森里海とその周辺の課題を理解するための基礎的な知識を学習します。10回目以降の7回の講義では、森里海に関する専門知識を有する学内外の講師を招き、それぞれの立場から森と地域、海とのつながりについての講義をお願いしています。1～8回目の講義は、学外の講師の講義を理解するために必要な知識を習得するために実施しています。9回目の講義では、10回目以降の講義の内容が理解できる水準に達しているかどうかを見極めるために試験を実施します。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：森里海連環学とは？ この講義の進め方を解説するとともに、森里海連環学についても説明をします。	次回の講義に関する課題
第2週：水質の基礎知識 私たちが使っている水は、どこからやってくるのだろうか？この疑問を解決するために、水を浄化して飲めるようにするための上水道の仕組み、使った水をきれいにして環境を汚さないようにする下水道の仕組みを解説します。その過程で、きれいな水の基準と指標について理解します。	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第3週：海を理解するための基礎知識 海の成り立ちとはどのようなものか解説をする、また、海の大循環から沿岸域の環境まで解説をします。	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第4週：川を理解するための基礎知識 河川に関して、その水質浄化機能や地形との関係、降雨との関係などの科学的側面と管理をするための行政的な側面の両面から解説します。	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第5週：森の基礎知識 森の役割について学び、植物と自然の関係から日本の林業について解説をします。	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第6週：大気の基本知識 大気の循環とはどのようなものか？きれいな空気とはどんな空気なのか？について、考えます。	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第7週：エネルギーの基礎知識	

石油や石炭, ウランなどの資源が, 私たちの使っているエネルギーに変換される過程について解説します.	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第8週：里山と里海の基礎知識 欧米と日本の自然に対する考えの違い, 自然とうまく付き合ってきた日本人の歴史について解説します.	前回の講義に関する課題
第9週：中間試験 今後の講義の内容が理解できる水準に達しているのかを試験で確認します.	次回の講義に関する課題
第10週：里山と里海の成り立ち 欧米と日本の自然に対する考えの違いを解説し, 日本人の宗教観に基づく自然観を解説します.	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第11週：これからのエネルギーの作り方, 使い方 トンボ型風車開発の経緯から, 今後の日本のエネルギーの考え方を解説します.	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第12週：里山をとりまく森林環境 大分県などの地方都市における林業の歴史とこれからの林業について解説します.	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第13週：水質の汚染と微生物の関係 微生物がどのようにして水をきれいにするのかを解説します.	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第14週：土壌物質の科学 土の微生物と土壌の環境浄化能力について解説をします.	前回の講義に関する課題 次回の講義に関する課題
第15週：森里海連環と地球環境の課題 森里海連環学の提唱者から, これまで活動とこれからの展開について解説をします.	前回の講義に関する課題
第16週：	
授業の運営方法	(1)授業の形式 「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式 「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング
備考	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	自然と人間生活の関わりについて理解するために, 意欲的に学習に取り組める.
【知識・理解】	里海・里山の成り立ちを理解し, 環境を理解するための基礎的なことを理解している.
【技能・表現・コミュニケーション】	森里海と地球環境に対して独自の提案ができる.
【思考・判断・創造】	自分たちの生活が, 自然環境に対してどのようなインパクトを与えているのか判断ができる.

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		18点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	15点	18点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	15点	10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	15点	9点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	
発表・その他(無形成果)	